

雫石町歴史民俗資料館

小さいながらも設備の整ったこちらの歴史民俗資料館は歴史・文化・伝統に興味がある人なら年齢問わず楽しめる場所です。先史時代の出土品などが内部展示では見られ、また、外観の展示では、馬が家族と一緒に暮らしていた伝統的な住居の中でも特に優れた例である農家を紹介しています。これは、当時、馬が輸送や農業に重要な役割を果たしていたことを反映したものです。

資料館の中で最も古い展示物は旧石器時代の土器です。これらはこの地域で発掘された32,000年以上も前のものと考えられています。また、日本の古代人が狩猟採集と漁撈の文化を営んでいた縄文時代（紀元前10,000年～300年）の遺物のコレクションも素晴らしいものがあります。この時代の土器や道具、さまざまな工芸品からは、この地域に最初に移住した農民たちの生活を垣間見ることができます。

その他のセクションには、縄文時代以降から現代までの衣服、文書、道具、日用品が展示されています。特に注目すべきは、亀甲織りと呼ばれる織り方の展示です。この独特な織り方は、地元で栽培された麻の植物から生地を生産するために使用されます。亀甲織りの名は、生地に作られた亀の甲羅に似た、隆起した六角形のパターンに由来しています。亀甲織りは雫石でしか行われておらず、前世紀には消滅が危ぶまれましたが、ここ数十年の再建の努力により、新たに評価されるようになりました。来館者はこのユニークな工芸品の技術と歴史についてさらに学ぶことができます。汗を吸収するのに最適な生地であるため、この技法を使用して下着「汗はじき」と呼ばれる織物が作られました。農民は、作業服の下に汗はじきを着ていました。

敷地内、博物館の隣に展示されている農家は、文字通り「曲がった家」を意味する曲がり家です。そのL字型の形は、馬を収容する厩舎と、家族の居間の側面に取り付けられた床のない作業エリアで構成されています。馬は家族の大切な一員であり、雫石のような農業地域では、このスタイルの家で、厳しい冬の間も農家が馬の世話をし、保護することを可能にしました。

この保存状態の良い曲がり家は、100年以上前のものだと考えられています。伝統的な茅葺き屋根と囲炉裏があり、暖房や照明、食事の準備をしていました。囲炉裏とは、石を敷き詰めた四角い穴のことで、その上には鍋や釜を吊るすことができるフックが付いています。

地元の土地利用の変化により、この曲がり家は博物館の隣に立つようになりました。1950年代、政府は洪水に備えて近くの御所湖にダムを建設することを推進しました。しかし、移転の対象となった520世帯は、家族の土地を手放すことに抵抗があり、1981年に御所ダムが開通するまで20年以上も交渉を続けてきました。ダムの影響を受けた建物の中で、博物館の敷地内に運び込まれたのが、この農家です。雫石町に残る曲り家の中で、このように大切に保存されているのはこの建物だけです。